



みなみの風

令和8年7月17日
第4号
文責 校長 松本

充実した夏休みに

梅雨明けとともに厳しい暑さが続いています。いよいよ、本日で前期前半が終了し、42日間の夏休みに入ります。これまで、各家庭でまた地域で子どもたちを温かく見守っていただきありがとうございます。これからしばらくの間、子どもたちは家庭、地域で過ごすこととなります。どうぞ、安心、安全に生活できますようよろしくお願いいたします。

暑い中ではありますが、集会で子どもたちに話す機会がありました。以下のような話をしました。

「気づき」

学校生活の中で、みなさんはたくさんの気づきを見せてくれました。友だちが困っていることに気づいて声をかけた人、落ちていたゴミに気づいて拾った人、先生や友だちの表情の変化に気づいてそっと寄り添った人。小さなことに気づけるというのは、まわりを大切にできる力です。みなさんの気づきが、学校をやさしい場所にしてくれました。

「考え」

気づいたあと、「どうしたらいいかな」と考える姿も多く見られました。「どうすれば友だちが笑顔になるかな」、「どうしたらもっとよくなるかな」、そんなふうに考えることは、自分を成長させる大切な力です。授業でも生活でも、みなさんが一生懸命考えている姿がたくさん見られるようになりました。

「行動する」

そして、考えたことを行動にうつすこと。これは勇気がいりますが、みなさんは少しずつできるようになってきました。あいさつをする、一声かける、手伝う、「ありがとう」を伝える。その一つ一つの行動が、学校全体をあたたかい場所にしてくれました。

「えがおであいさつ」「ありがとう」の力

えがおであいさつをすると、された人もした人も心が明るくなります。「ありがとう」は、人と人の心をつなぐ魔法の言葉です。この3か月間、みなさんのえがおや「おはようございます」「ありがとう」が、学校をやさしい空気で満たしてくれました。



さて、これから始まる夏休みは、みなさんが自分で自分を育てる時間です。学校のように先生がそばにいないわけはありません。「誰も見ていないからいいや」ではなく、「自分が見ている」ということです。自分の行動を一番よく見ているのは、自分自身です。自分が胸を張れる行動を、夏休みの間も続けてほしいと思います。家の人の手伝いをする、地域の人にあいさつをする、自分で決めたことをやりとげる。そんな小さな積み重ねが、みなさんをもっと強く、もっとやさしくしてくれます。

最後に、夏休みは挑戦できる時間です。失敗しても大丈夫。挑戦する気持ちを応援します。2学期、みなさんがまた元氣なえがおで登校してくれることを楽しみにしています。安全に気をつけて、充実した夏休みを過ごしてください。

これまでの取組により、無言入場、集中して話を聞くことがずいぶん定着してきました。

なかまづくり集会

前期の校内人権旬間(6月8日～26日)のまとめとして、7月8日に全校人権集会(なかまづくり集会)を行いました。それぞれの学級で行った人権学習をもとに、学年集会を実施し、その中で出された意見などをまとめ、全校での集会を開きました。当日は、リモート形式で人権委員会のみんなが司会等を進めてくれました。それぞれの学年の発表を聞き合い、お返しの言葉を書きました。人権委員会のみんながしっかりと準備し、進めてくれたのでとてもわかりやすく、充実した集会となりました。なかまづくりをテーマとした人権学習、全校集会でしたので校長講話では、「いじめの矢と心」の話をして、なかまづくりについて考えてもらいました。



南小支援の会

本校には、南っ子支援の会という組織があります。川畑会長をはじめ、各区長さん、民生委員さん、更生保護女性会、生涯学習課、学校評議員の皆さん、PTA役員の皆さん、地域コーディネーターの皆さんによって構成されています。

6月26日、本年度の第1回実行委員会が行われました。皆さんには、これまで登下校の見守り活動、お話ポケット「読み聞かせ」、様々な学習活動の補助、門松作りなど多くのサポートをしていただいています。子どもたちの安心・安全、学びの充実に向けて大きな力となっております。どうぞ、今年度もよろしくお願いいたします。